



大和総研 協力講座

公共政策セミナー I  
公共経営論



**REVIEW & DISCUSSION**

山重慎二（政策大学院）



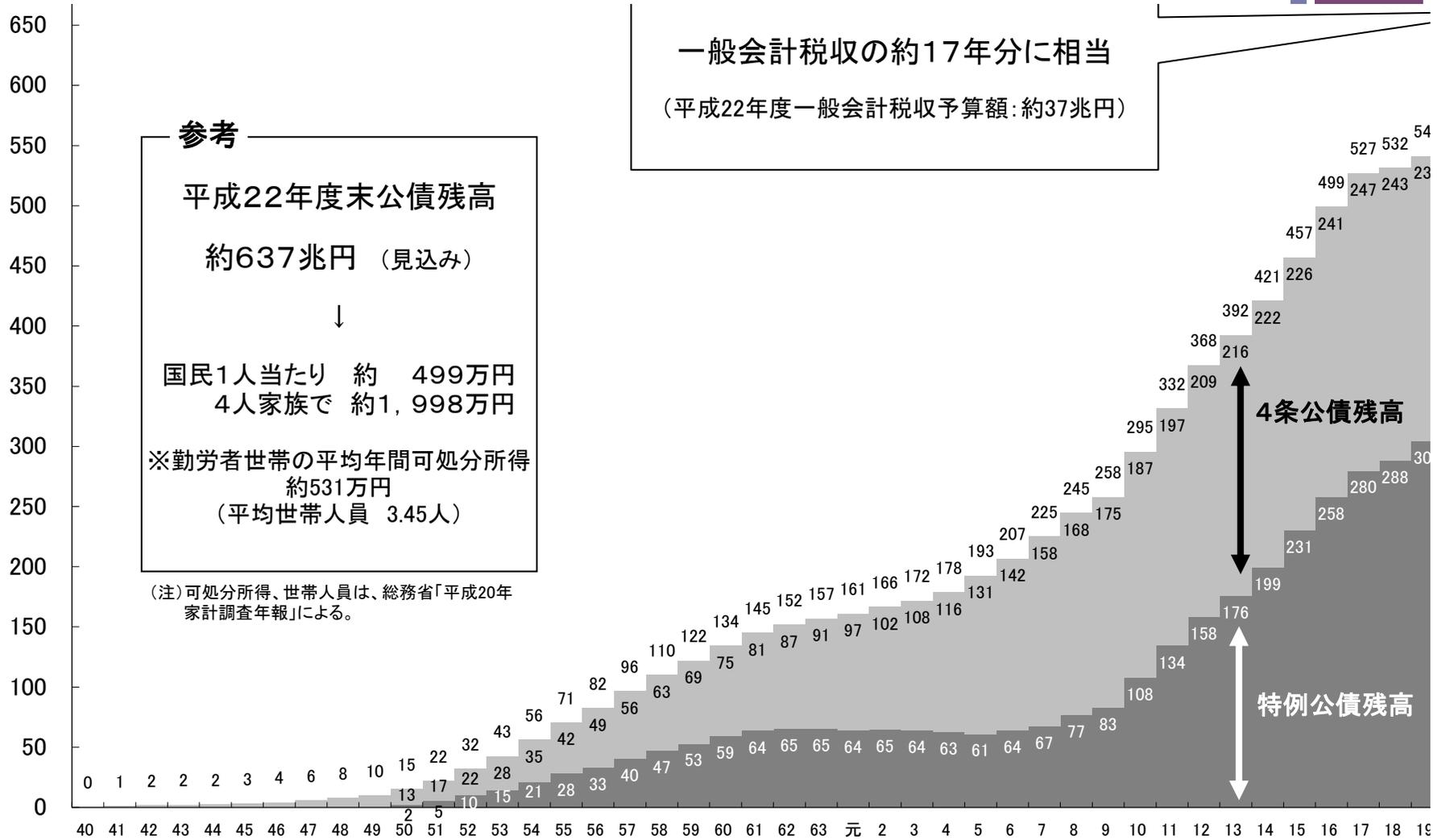
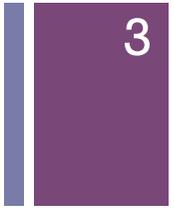
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

## + 講義の概観

- 公的資金運用のあり方
- 政府系ファンドの可能性、投資家行動
- 公共経営における社会的責任のあり方
- 官民連携ファイナンスの動向と今後の方向性
- 道路制度の現状と課題
- 公共インフラとしての空港とその経営
- 都市公共交通のあり方



# 議論の背景



(注1) 公債残高は各年度の3月末現在額。ただし、平成21年度末は第2次補正後、22年度末は当初の見込み。

(注2) 特例公債残高は、国鉄長期債務、国有林野累積債務等の一般会計承継による借換国債を含む。

(注3) 平成21、22年度末の翌年度借換のための前倒借限度額を除いた見込額はそれぞれ、588兆円程度、625兆円程度。

## + 市場の失敗 v.s. 政府の失敗 (1)

### ■ 「市場の失敗」の問題

- ① 外部性（公共財・ネットワーク外部性）
- ② 規模の経済性
- ③ 情報の不完備性
- ④ 不公平性（基本的人権の確保）

■ 「市場の失敗」の問題を改善するために「公営事業」や「規制」などが行われる。

## + 市場の失敗 v.s. 政府の失敗 (2)

### ■ 「政府の失敗」の問題

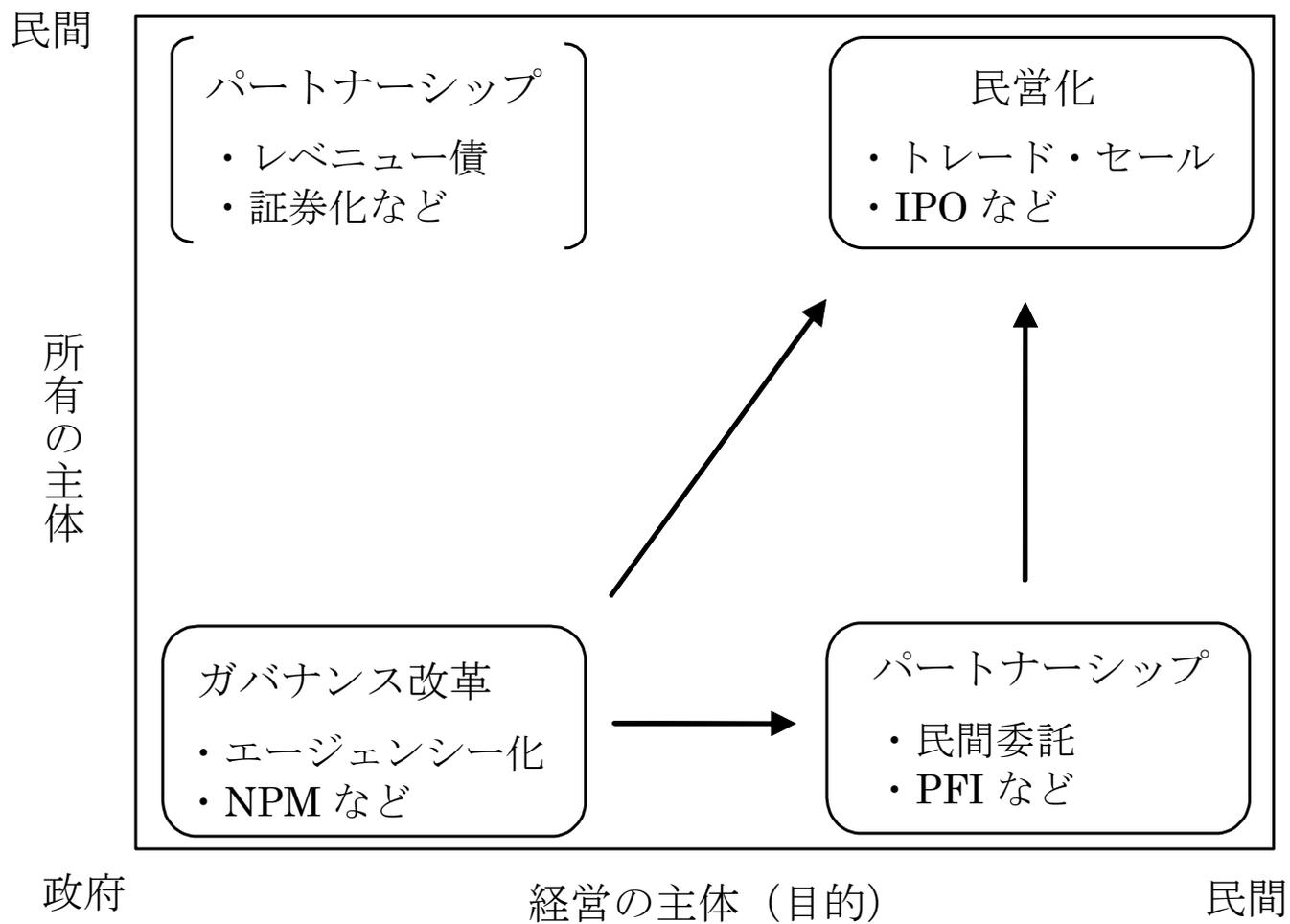
- ① 主権者である国民や住民が政府活動を監視するインセンティブを持たないため、政府が国民・住民のための活動を真剣に行わない（情報の不完備性）
- ② 政府活動のパフォーマンスを定量化することが難しいため、政府が国民・住民のための活動を真剣に行わない（契約の不完備性）

- 「政府の失敗」の問題を改善するために、「民営化・官民連携」や「ガバナンス改革」が行われる。

## + 公営事業の見直し

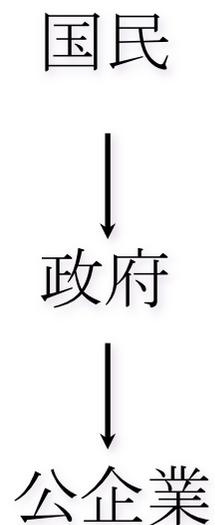
- 公営事業として行われていた事業の見直しを行う場合、事業資産の「**所有**」と事業の「**経営**」を分けて、問題を考えた方がよい（わかりやすい）。
- 民営化（Privatization）は（民営という日本語訳にも関わらず）事業資産の所有の民間移転を示すことが多いが、事業の経営の民間移転を示す言葉として官民連携（Partnership）をいう言葉を使ってみる。
- 所有のための「**資金調達**」を誰がどのように行うかも問題となる。

# + 「公営事業」の見直し（所有・経営）

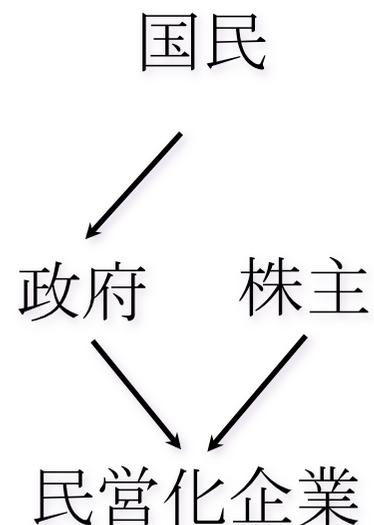


# + 「公営事業」の見直し（所有・経営）

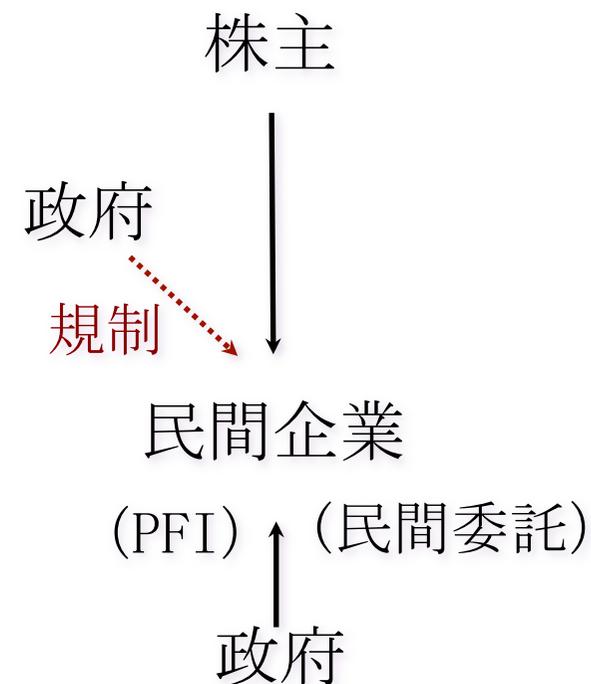
(1) 公企業



(2) 部分的民営化



(3) 完全民営化

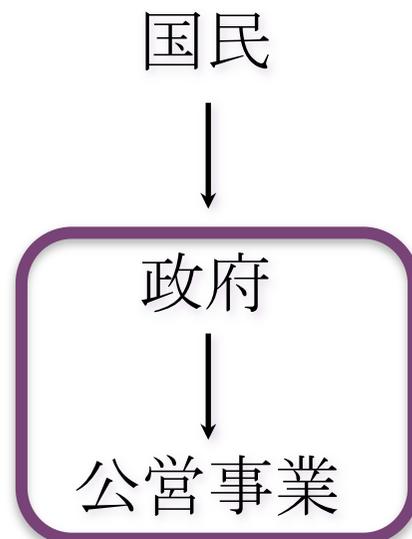


政府のゴール	社会福祉
株主のゴール	利潤

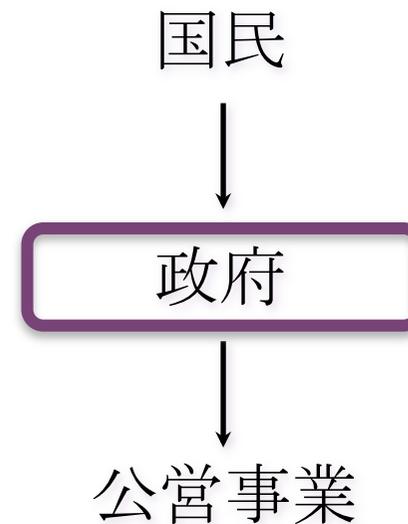
## + 「ガバナンス改革」

- 「X(企業、政府、国家、国際社会など)のガバナンス(統治)」問題とは、Xをコントロールする権利あるいは責任を有する者が、Xを如何にコントロールするかという問題(広義の定義)。

(1) 公企業



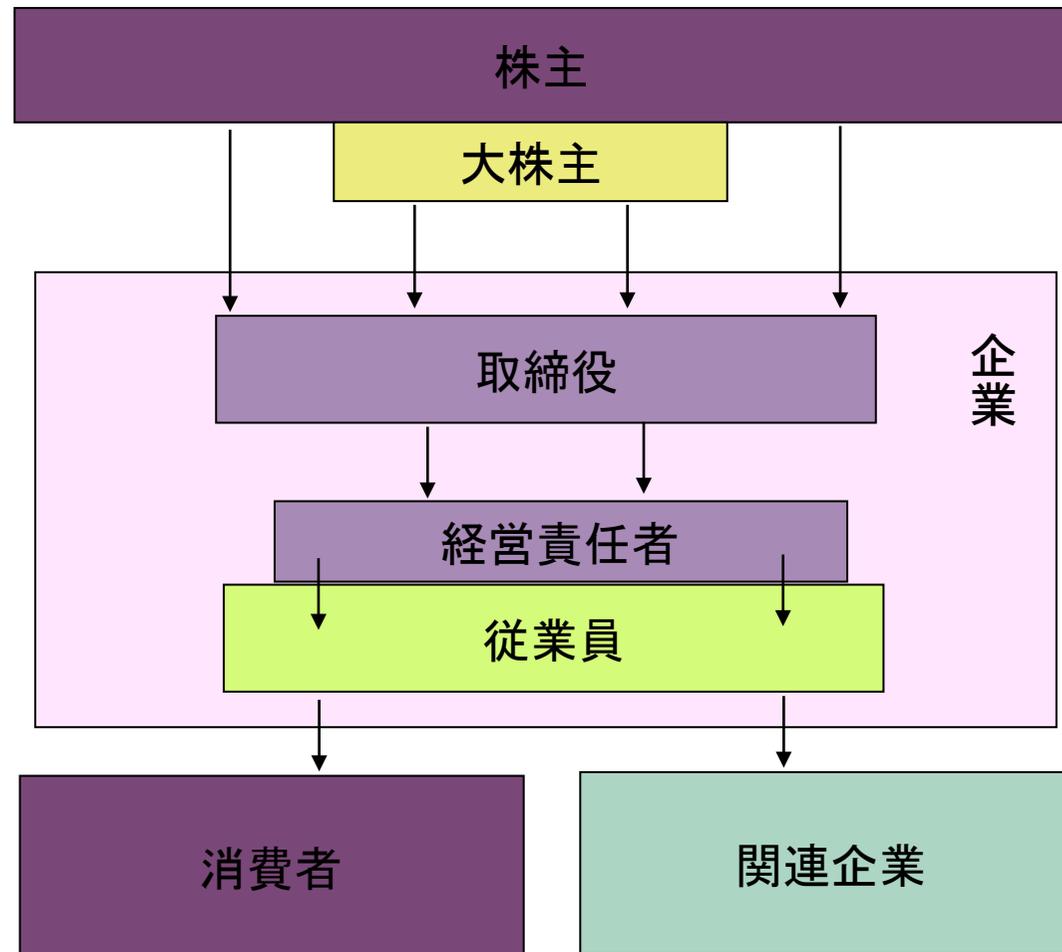
(1)' エージェンシー化



## + 民間事業者への「規制」と社会的責任

- 民間企業において生じる「市場の失敗」の問題を緩和するために、政府はこれまで様々な「規制」を行ってきた。
- しかしながら、規制政策においても「政府の失敗」の問題が発生するため、出来るだけ「規制」によらない形で、「市場の失敗」の問題を緩和する手法が模索されてきた。
- 企業に「社会的責任」を果たすよう求めること（自主規制）が一つの手法として広がっている。
- そのような「社会的責任」の遂行を確実なものにするための民間企業のガバナンス改革も求められているように思われる。

# + 株式会社におけるガバナンス



## + これからの「公共経営」のあり方

- 「公共経営（Public Management）」の問題とは、市場経済における「市場の失敗」の問題（公共性の問題）をいかに緩和していくかという問題と考えることができる。
- 政府介入によって「市場の失敗」の問題を緩和していくことに、「政府の失敗」が伴うことを踏まえた時に、どのような手法を用いて「市場の失敗」の問題を緩和していくかは、これからの社会の質（Quality of the Society）を高い水準に維持して行く上で非常に重要な問題となる。
- 様々な試みの「分析」に基づく「提案」が求められている。